

プログラミング学習イベント ロボットで課題に挑戦 大館市の小中生技術学ぶ



風船割りなどの課題が設けられたコースでロボットを走らせた参加者

プログラミング技術を学んで競う「ロボット教室&大館カップ大会」が、大館市の秋田職業能力開発短期大学校で開かれた。市内の小中学生30人が参加し、自分で組んだプログラムでタイヤ付きロボットを走らせた。

参加者は初級、中級に分かれてプログラミングを学習。同短期大学の教員や市内企業「東光コンピュータ・サービスの社員から指導を受け、ロボットの走る速度や方向のプログラムをパソコンで組んだ。

縦約60センチ、横約85センチの大会コースには、ターンをしたり風船を割ったりする課題を用意。参加者は試走と修正を繰り返して、本番で思い通りゴールに着くとガッツポーズで喜んだ。コースを外れてしまい、悔しそうな表情を見せる人もいた。

中級に挑戦した城南小6年の乳井香緒莉さんは「コースを曲がるときに角度調整が難しかった。また参加して、もっとうまく走らせた」と話した。

大館商工会議所や同短期大学校、市教育委員会などでつくる「おおだてロボット人材育成コンソーシアム」(会長・佐藤義晃大館商工会議所会頭)が5日に開催した。

(早坂孝子)